



© Gideon Mendel/2007/UNICEF UK

HIV/エイズの**予防**

圧倒的な勢いで世界的に広がりつつある HIV/エイズ。その中で、小さな勝利が、ほんの少し前までは達成不可能であろうと思われていた成果を生みつつある。2007年は、国連エイズ特別総会が開催された2001年よりHIVと共に生きる人たちの数が多くなったとはいえ、世界的な感染率*は落ち着きつつあり、新しく感染する人の数は減少方向に向かっている。

2007年、ユニセフは「子どもとエイズ」世界キャンペーン (Unite for Children, Unite against AIDS) に参加する主要なパートナーとして、“*Children and AIDS: A Stocktaking report*” (子どもとエイズ: 活動・成果報告書) を発行した。この報告書では、「4つのP」についての各国の進捗具合を報告している。4つのPとは、Prevent mother-to-child transmission (母子感染の予防)、Provide paediatric treatment (HIVに感染した子どもの治療)、Prevent infection among adolescents and young people (若者のHIV感染予防)、Protect and support children affected by HIV and AIDS (HIV/エイズにより困難な状況におかれた子どもたちへの保護と支援)である。

大小のコラボレーション (協働) を通し

て、ユニセフはエイズに関する広報活動に参加した。ブラジルでは、世界エイズデーに宗教指導者たちが若者たちに行動を起こすよう呼びかけた。インドでは、世界で一番多くの人たちを動員してキャンペーンを繰り広げるレッド・リボン・エクスプレス号が9,000キロに及ぶ長い旅路の中で180の駅を訪問し、エイズへの認識向上を呼びかけている。このほか、ファミリー・ヘルス・インターナショナルとユニセフは力を合わせ、Unite for children, Unite against AIDS の「4つのP」を柱に、質の高いHIV/エイズ対策プログラムを女性と子どもたちに提供している。この最初の段階として、母子感染予防と小児ケアに力を入れ、ガイアナ、インド、マラウイ、ナイジェリア、ザンビアでプログラムを展開している。

革新的な医薬品購入機関であるUNITAID (ユニットエイド) のパートナー機関として、ユニセフと世界保健機関 (WHO) は、国レベルでHIVの母子感染防止を拡大するためのイニシアティブを立ち上げた。出産前、出産後の妊産婦向け保健サービスを実施する中で、保健員による感染検査やカウンセリングを拡大しようというものである。また、女性や新生児に対して抗レトロウイルス薬による治療を拡大

し、HIVに感染した幼児たちの小児治療への早期アクセスを可能にするものでもある。

母子感染防止サービスへのアクセスと利用は、すでに中央アフリカ共和国、レソト、スワジランドを含むサハラ以南のアフリカでかなり拡大しつつある。この傾向はアフリカに限ったことではなく、ニカラグア、フィリピン、ロシア連邦でもこれらのアクセスと利用が増加している。

MTV、スポーツ組織、ユニセフ国内委員会、ポップ・カルチャーの著名人などとのパートナーシップにより、ユニセフは若者たちにHIV予防メッセージを伝え、予防教育を実施することに成功している。さらに、家族やコミュニティの直接的な支援のおかげで、ユニセフは、エイズにより孤児になったり、困難な状況に陥ったりした子どもたちがケアを受け、保護が受けられるよう支援している。孤児や困難な状況にある子どもたちについてのデータベースの構築と登録システムが、ボツワナ、レソト、ナミビア、シエラレオネ、スワジランドで強化された。

*HIV感染率 (=HIV prevalence)

Prevalenceは、ある一時点で、観察しようとする集団の中で特定の「疾患」にかかっている人の割合を指し、一般に「有病率」と訳す。しかし、HIV/エイズの場合は、エイズ患者に加え、まだ発症していないHIV感染者も含めて、HIV/エイズと共に生きている人々の割合を指すため、ここでは「HIV感染率」と訳している。

FAST FACTS

数値が語る世界

2007年の全世界でのHIV感染者の数(おとなと子どもを含む)：
3,320万人

2007年にエイズにより亡くなった人の数：**210万人**

2007年に新たにHIVに感染した人の数：**250万人**

そのうちサハラ以南のアフリカでの感染者数：**170万人**

2007年の段階でHIVと共に生きている15歳未満の子どもの数：
210万人

そのうち母子感染した子どもの割合：**90%以上**

2007年にエイズにより亡くなった15歳未満の子どもの数：
290,000人

HIVに感染している若者(15-24歳)の数：**540万人**

サハラ以南のアフリカでHIVに感染している若者のうち、
女性の割合：**76%**

サハラ以南のアフリカで、親の両方あるいは片方をエイズにより
失った子どもの推定数：**1,210万人**

HIV感染率の高い国で、祖父母と一緒に住んでいる孤児の割合：
約50%

新しくHIVに感染する人の数：1日あたり**6,849人**



© UNICEF Timor-Leste/2007/Bridgette See

成果

東ティモールは、HIV感染の拡大を何とかしてでも食い止めたいと考えている。これを成功させるためのカギは、若者たちが握っており、彼らがHIV/エイズをどう認識しているかにかかっている。根深い伝統と保守的な信仰のために、HIV/エイズの話を取り上げにくい国ではあるが、政府は「話すべき時がきた」と判断したのである。

2006年に確認されたHIV感染数は43件で、症例数は少ないと言える。しかし、ディリには3つの検査施設しかなく、首都以外では感染検査を利用することがほとんどできないことを考えると、実際の感染数はもっと多い可能性がある。政府は万全の対策を取ろうとしている。「話すべき時がきた、HIVについて学んでみよう」というイニシアティブは、東ティモールの15歳から24歳の若者に、命を守るために必要な正確な情報を提供しようというもので、率直な討論と若者たちの積極的な参加が要となっている。

若者たちは特にHIVに感染しやすい。2007年、全世界の15歳以上の新規感染者のうち約40%を占めているのが、15歳から24歳の若者なのである。2006年に行われた全国基礎調査によると、東ティモール

の若者は、リスクのある行動をとるという点では、世界のほかの若者たちと何ら変わりがないことがわかった。こうした中で、信頼できる情報が欠如しているのは、危機的な事態である。

東ティモールはピア・エデュケーション・キャンペーン（若者が若者に正しい情報を提供する）を通して、命に関わる情報の欠如と闘っている。若者が主導する、パレード、コミュニティで演じられる演劇、コンサート、スポーツ競技、エッセイや絵画コンテスト、ラジオのトーク・ショーなどを通して、総合的な知識を若者たちに提供しようというものである。2007年に、ユニセフ支援によるイニシアティブにより、80人のマスター・トレーナーが養成され、そのもとで、今度は1,525人のボランティアたちが、40,000人の若者たちを対象に、HIVについての啓蒙活動を主導したのである。さらに、630人の同年齢の若者たちが、学校の内外で、6つの地域とディリ市内の6つの避難民キャンプでピア・エデュケーターとしての研修を受け、18,000人近い若者たちを対象に活動を行った。

「話すべき時がきた」キャンペーンは、世界で行われているそのほかの「子どもとエイズ」世界キャンペーン（Unite for

Children, Unite against AIDS）の啓蒙活動と似ている。若者に優しい保健サービスを通じて、ピア・ツー・ピア（同年代間）のカウンセリングや情報を提供するプログラムは、ブルンジ、パレスチナ自治区、ロシア連邦、ウガンダで実施されている。カリブ海諸国では、2007年クリケット・ワールドカップが開催された折りに、多くの若者たちにHIV予防メッセージを伝えることができた。東ティモールのピア・エデュケーション・キャンペーンが特に成功した背景には、地方分権化された形でプログラムが実施され、13のそれぞれの地区の事情に合わせて活動とメッセージが展開されたことにある。キャンペーン自体は、省庁とNGO（非政府組織）から成る全国キャンペーン委員会が支援し、モニターしているが、地元オーナーシップのおかげで、コミュニティ、家族、教会が若者たちの率直な討議を積極的に支援している。

「我々の多くはHIV/エイズに関する正確な情報を持っていない。だから怖いんだ」と27歳のHIV陽性のボランティアは言う。「感染者である人たちに、治療を受けて情報をもらうようにと説得し、リスクが高い性行動を取らないようにと促したいんだ。」